

環境モニタリング結果報告書(2004年5月分)

1. 空間線量当量率（周辺監視区域及び管理区域の境界付近）

- (1) 測定日 平成16年5月1日～5月31日の休業日を除く18日間
 (2) 測定器 NaIシンチレーションサーベイメータ
 (3) 測定値（18回のうちの最大値を示します。）

(i) 周辺監視区域境界

| 測定場所 | 測定値 ($\mu\text{Sv/h}$) | 測定場所 | 測定値 ($\mu\text{Sv/h}$) |
|------|--------------------------|------|--------------------------|
| 1 | * | 11 | 0.05 |
| 2 | * | 12 | 0.05 |
| 3 | * | 13 | 0.06 |
| 4 | * | 14 | 0.08 |
| 5 | * | 15 | 0.05 |
| 7 | 0.06 | 20 | 0.06 |
| 8 | 0.06 | 21 | 0.05 |
| 9 | 0.05 | 22 | 0.05 |
| 10 | 0.05 | | |

(ii) 管理区域境界

| 測定場所 | 測定値 ($\mu\text{Sv/h}$) | 測定場所 | 測定値 ($\mu\text{Sv/h}$) |
|------|--------------------------|------|--------------------------|
| 6 | * | 18 | 0.05 |
| 16 | 0.05 | 19 | 0.05 |
| 17 | 0.05 | | |

測定値にはバックグラウンド（ $0.03\sim 0.06\mu\text{Sv/h}$ ）を含みます。

(4) 結果

いずれも制限値（周辺監視区域境界： $0.11\mu\text{Sv/h}$ 、管理区域境界： $2.5\mu\text{Sv/h}$ ）を下回っており周辺環境への影響はありません。なお、この制限値はバックグラウンドを除いた値として定められています。

2. 空間線量当量率（敷地境界付近）

- (1) 測定日 平成16年5月1日～5月31日の毎週1回 計4回
 (2) 測定器 NaIシンチレーションサーベイメータ

(3) 測定値（4回のうちの最大値を示します。）

| 測定場所 | 測定値（ $\mu\text{Sv/h}$ ） | 測定場所 | 測定値（ $\mu\text{Sv/h}$ ） |
|------|-------------------------|------|-------------------------|
| (1) | 0.06 | (4) | 0.06 |
| (2) | 0.06 | (5) | 0.05 |
| (3) | 0.07 | | |

(4) 結果

いずれもバックグラウンド並であり周辺環境への影響はありません。

3. 空気中の放射能濃度

(1) 測定日 平成16年5月1日～5月31日の毎週1回 計4回

(2) 測定方法 ろ過捕集方式、自動計数装置

(3) 測定値（4回のうちの最大値を示します。）

| 測定場所 | 測定値（ Bq/cm^3 ） | 測定場所 | 測定値（ Bq/cm^3 ） |
|------|-------------------------|------|-------------------------|
| A | 検出限界濃度以下 | d | 検出限界濃度以下 |
| B | 検出限界濃度以下 | e | 検出限界濃度以下 |
| C | 検出限界濃度以下 | | |

注）検出限界濃度は $2.270 \times 10^{-10} \text{ Bq/cm}^3$ です。

(4) 結果

いずれも制限値（ $3 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$ ）を下回っており周辺環境への影響はありません。

4. 地下水中のウラン濃度

(1) 試料採取日 平成16年5月10日

(2) 分析方法 ICP-MS

(3) 分析値

| 試料採取場所 | 分析値（ppb） | 試料採取場所 | 分析値（ppb） |
|--------|----------|--------|----------|
| A | 検出限界濃度以下 | C | 検出限界濃度以下 |
| B | 検出限界濃度以下 | D | 検出限界濃度以下 |

注）検出限界濃度は0.1ppbです。

(4) 結果

いずれもわが国の河川中のウラン含有量（0.34～1.23ppb）を下回っており周辺環境への影響はありません。

測定場所及び試料採取場所の位置については[付図](#)を参照願います。

整備作業の進捗に伴って、管理区域及び周辺監視区域の解除、並びに建屋の解体撤去が進んでおりますが、測定場所などの位置に変更はありませんので、管理区域の範囲及び建屋の配置については

当初のまま記載しております。

空間線量当量率の測定について、施設Pについては整備作業が完了しましたので、測定場所1～6（測定値の表中「*」にて表示）における測定は終了しております。なお、旧核燃料試験研究施設のうち、現在、管理区域が残っているのは施設Eの一部のみで、その施設Eの周辺監視区域については従来どおりとしております。

以上